



2019年4月10日

各位

会社名 株式会社ビットワングループ
代表者名 代表取締役社長 高橋 秀行
(コード番号 2338 東証第二部)
問合せ先 取締役管理部長 村山 雅経
TEL 03-5360-8998 (代表)

特別損失の計上及び実績値と業績予想の差異に関するお知らせ

2019年2月期(2018年3月1日～2019年2月28日)の連結および個別決算において、下記の通り特別損失を計上するとともに、2019年1月11日に公表しました連結業績予想と実績値の差異及び2018年2月期と2019年2月期の個別業績実績値の差異についてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) のれんの減損損失の計上

当社の連結子会社であります株式会社プロケアラボ(旧社名エムアンドケイ株式会社)におきまして、直近の業績見込み並びに来期の事業計画等を勘案した結果、当初の利益計画には及ばないことが明らかになったため、連結決算において153百万円を減損損失として、特別損失に計上いたしました(これと関連して、個別決算上は、投資損失引当金繰入額として特別損失174百万円を計上しております。当該投資損失引当金繰入額174百万円は、連結上相殺消去されますので、連結上は、先に記載した153百万円の減損損失のみの計上となります。)

なお、この減損処理等により、のれんの未償却残高はゼロとなるため、2020年2月期ののれん償却額はゼロとなる見込みです。

(2) 固定資産の減損損失の計上

当社グループの2020年2月期の見込みは、売上高690百万円、営業損失160百万円、経常損失170百万円、親会社株主に帰属する当期純損失150百万円となっており、当社グループでは、当社グループの保有する事業用資産の全額を回収することは困難と判断し、特別損失として減損損失を個別決算上1百万円、連結決算上25百万円を計上いたしました。

(3) 子会社株式評価損の計上

当社の連結子会社であります株式会社ビットワン及び株式会社マイニングワン等について、同社の事業環境及び今後の見通し等を勘案し、個別決算において、それぞれ子会社株式評価損220百万円及び9百万円の合計230百万円を特別損失として計上いたしました。

なお、上記子会社株式評価損は、連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(4) 貸倒引当金繰入額の計上

当社の連結子会社であります株式会社ビットワン、株式会社マイニングワン、BIT ONE HONG KONG LIMITED 及び FASTEPS SINGAPORE PTE. LTD. に対して有する未収入金や貸付金等の金銭債権について、同社の事業環境及び今後の見通し等を勘案し、個別決算において、それぞれ貸倒引当金を設定し、貸倒引当金繰入額800百万円を特別損失として計上いたしました。

なお、上記貸倒引当金繰入額は、連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

上記の特別損失の計上は評価に関する損失であり、金銭支出を伴う損失では無いため、当社の資金繰りに影響はございません。

2. 2019年2月期通期連結業績予想数値と実績値の差異（2018年3月1日～2019年2月28日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|--------------------------|-------|------|------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 610 | △480 | △510 | △910 | △130.00 |
| 実 績 値 (B) | 618 | △480 | △510 | △1,111 | △155.75 |
| 増 減 額 (B-A) | 8 | △0 | △0 | △201 | |
| 増 減 率 (%) | △1.6% | — | — | — | |
| (ご参考) 前期実績 (2018年2月期) | 1,034 | △187 | △198 | △518 | △97.89 |

3. 2018年2月期通期個別実績（2017年3月1日～2018年2月28日）と2019年2月期個別実績（2018年3月1日～2019年2月28日）の差異

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|-------------|--------|------|------|--------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前 期 実 績 (A) | 240 | △100 | △116 | △533 | △100.68 |
| 当 期 実 績 (B) | 201 | △42 | △61 | △1,218 | △170.74 |
| 増 減 額 (B-A) | △38 | 57 | 54 | △685 | |
| 増 減 率 (%) | △16.2% | — | — | — | |

4. 連結業績差異の理由

当連結会計年度における当社グループにおいては、事業ポートフォリオの再構築を目指し、フィンテック事業へと舵を切りましたが、仮想通貨取引量の減少や、仮想通貨の市場価額の低迷等により、マイニング事業からは撤退をし、仮想通貨交換所事業についても想定通りの結果を出すに至りませんでした。

そのような状況の中、上記「1. 特別損失の計上について」の（1）及び（2）に記載したの通り、のれん及び固定資産に関して特別損失を計上したこと等により親会社に帰属する当期純損失の実績が予想を201百万円下回りました。

5. 個別業績差異の理由

当社の当会計年度における売上高に関しては、経営環境の悪化や連結子会社に対する経営指導料の減額等により、前期比38百万円減少いたしました。

また、経費節減等の効果により売上原価率が前期56.4%であったところ、当期においては、43.3%と13.1%改善しました。それに加えて、販売費および一般管理費として前期に研究開発費53百万円を計上いたしました。当期は、研究開発費の計上が1百万円未満であったため、当社の個別会計上の営業利益及び経常利益は、前期比それぞれ57百万円増、54百万円増となりました。

更に、当会計年度に上記「1. 特別損失の計上について」に記載の通り特別損失を個別会計上1,209百万円計上したことにより、当社の個別会計上の当期純利益は、前期比685百万円減となりました。

以 上